

指導事例

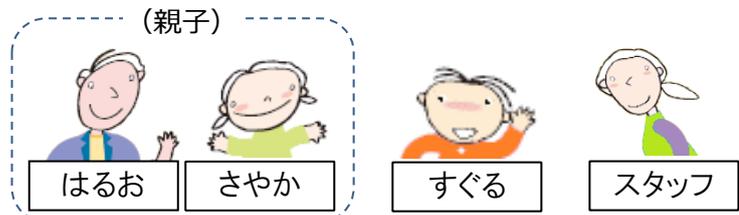
2-10 「かかわる」

つどいの広場で遊ぶ子どもたちが、ブロックを使いたくてけんかになったり、周りの大人の関わりで状況が進展したりするエピソードを通じて、子どもが人と関わる力を育むための方法について考えます。

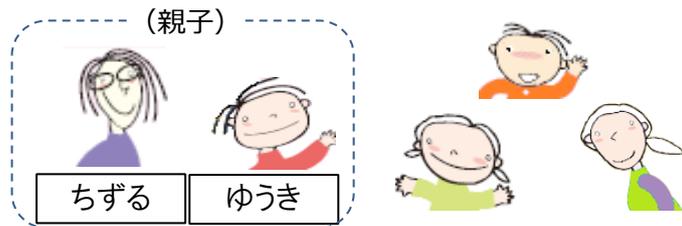
エピソード

- 4歳のさやかと父はるおが、つどいの広場へ行く。
- さやかとスタッフがブロックで遊んでいると、3歳のすぐるが近づいてくるが何も言わない。ブロックで遊びたかったすぐるは、さやかが遊んでいるブロックをつかみ、さやかとけんかになってしてしまう。
- スタッフの声かけがあり、2人が一緒に遊ぶようになった所へ、次は5歳のゆうきが母ちずるとやってきて、一緒に遊ぶ。
- 子どもたち3人はブロックで仲よく遊ぶものの、積み上げすぎてくずれてしまう。ちずるやゆうきが謝り、スタッフの関わりもあって、また、みんなで遊び始める。
- はるおは、子どもどうしの関わり必要性について考える。

(はじめの場面) ブロックをつかんだすぐると、さやかがけんかになる。スタッフの仲裁で、仲よく遊ぶようになる。



(2つめの場面)

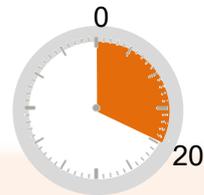


ゆうきが加わって3人で遊ぶが、高く積みすぎたことでブロックが崩れる。ちずるやゆうきが謝り、スタッフの声かけで、再び遊び始める。

活動の流れ (90分)

時間	活動内容
20分	<p>◆ 導入 (P2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ あいさつ・自己紹介 ▶ 参加型学習のルール確認 ▶ アイスブレイキング・グループ分け ▶ エピソードの読み合わせ
60分	<p>◆ グループワーク (P3~6)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① エピソードを読んで、どのように感じましたか? ② さやかちゃんやすぐるくんの気持ちを考えましょう。 ③ ちずるさんやスタッフの声かけについて、どう思いますか? ④ 子どもの「かかわる力」を育てるには、何が大切でしょうか?
10分	<p>◆ ふりかえり (P7)</p> <p>今日の話しあいをふりかえりましょう。</p>

導入



あいさつ 自己紹介

進行役の自己紹介をする

「みなさん、こんにちは。」
「これから、『子育て』について、みんなで話しましょう。」
「わたしは、……………」

ルール 確認

参加体験型学習に必要な4つのルールについて説明する

「これからの時間の中で、守ってほしいルールが4つあります。」

「参加」：講座に参加するために、できるだけ自分の考えを話すようにする。話したくないことはパスもできる。

「尊重」：人が話している時はしっかり聞く。自分の考えと違っていても話をさえぎらず最後まで聞く。

「守秘」：この場で聞いたことはこの場限り。他でもらさない。ワークが進むと自分の生い立ちや家庭状況を話す人もいる。安心して話せるように、この場での話は絶対に外にもらさないことを約束する。

「時間」：一人あたりの発言時間を守る。
参加者全員に話せるように、制限時間内に話を納めるよう気を付ける。

アイス ブレイキング

アイスブレイキングを行う

「アイスブレイキングとして〇〇をしましょう。」

- ・参加者の心をほぐすワーク・ミニゲームなどを行う。
- ・緊張や硬い雰囲気を柔らかくしたり、意見を出しやすくしたりする。

グループ 分け

グループをつくる

「5～6人のグループをつくりましょう。」

- ・アイスブレイキングをしながら、グループ分けをする方法もある。（ゲームをしながら並びなおし、端からグループ分けする方法など）
- ・父親や母親、祖父母など、さまざまな人がグループに入ると、グループワークで多様な意見が出やすくなる。
- ・机やイスを動かしてグループをつくる。
- ・一つのグループにできるだけ一人のファシリテーターが入る。

エピソード を読む

登場人物の説明、場面設定を読みあげる

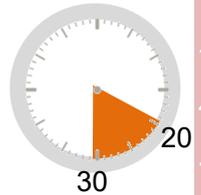
「それでは今日の資料を配ります。はじめにエピソードを読んでみましょう。」

「役割分担してこのエピソードを読みあげてみましょう。」

- ・まず、各自で黙読をしてから読み合わせるのもよい。
- ・朗読はグループごとでもよいし、進行役が全体の場で読み合わせても構わない。

1

エピソードを読んでどのように感じましたか？



リーダー

エピソードを読んでどのように感じましたか？気づいたことや気になったことなどを紹介してください。

予想される意見

よくある
という方々

よくある話だと思う

「おもちゃの取り合いは、よくある話だと思う。こんな時、親はどうしたらいいのかな？」

子ども同士で解決してほしいな

「おもちゃの取り合いはよくあることだから、子ども同士で解決できるようになって欲しい。だから、何も言わずに見ておこうとするだろうなあ。」

取り合いにならないように、誰もいないところへ連れて行ってしまおう

「私だったら、他の子が使っていないスペースへ連れて行って、おもちゃの取り合いにならないようにしてしまうと思う。」

おもちゃの
取り合いを
避けたい意
見の方々

取り合いになったら、収まるようにしようとする

「公園やひろばで、知らない親子がいる場面だったら、自分の子どもにがまんさせても、おもちゃの取り合いが収まるようにするなあ。」

その他の
意見の方々

実際は、このエピソードみたいにうまくいかない

「このエピソードでは、うまく仲直りしているけれど、実際はこんなにきれいに収まらない。自分の子どもなら、もっと自分一人で使いたがって、『いいよ』と言ったり、謝ったりできないと思う。」

さやかちゃんは「いいよ」ばかり言っているのが気になる

「さやかちゃんは、『いいよ』ばかり言っているけれど、本当にいいと思っているのかな？気になるな。」

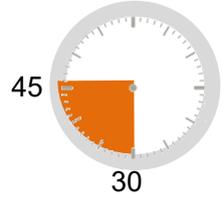


話しあいのポイント

1. はじめの話しあいを、少ない人数で行うと、参加型ワークの抵抗感が少なくなるでしょう。まず、グループのメンバーを2人組（3人組）にわけて話しあい、その後に、2人組（3人組）で出された意見を、グループ全体に紹介してもらおう方法があります。
2. エピソードを読んで感じたことを話しあう中で、グループワーク②や③につながる意見も出てくるでしょう。それらも含めて、参加者みなさんの意見を出し合った後で、「先程、〇〇という意見がありましたが、△△についてどう思いますか？」と、次のグループワークにつなげると、自然な流れで進行できるでしょう。
3. 意見に偏りがある場合は、違った意見を紹介することで、話しあいが深まります。

2

さやかちゃんやすぐるくんの気持ちを考えましょう。



リーダー

さやかちゃんやすぐるくんの気持ちを考えましょう。

- ・さやかちゃんは、「いいよ」というセリフを何度か言いますね。どのように思っているのでしょうか。
- ・すぐるくんは、ブロックの所に近づいてきたのに、しばらく見たままで、突然ブロックをつかみましたね。どのように思っているのでしょうか。

予想される意見

【さやかちゃんについて】



素直な子なのかな、うちではこうはいかないけれど……

「『いいよ』って素直に言っていていいな。うちではこうはいかなくて、『いやや』が多い。こんなふうに、言うことを聞いてくれたらうれしいのだけれど……」

「いいよ」は、子どもからよく聞くセリフ

「『かして』→『いいよ』や、『ごめんね』→『いいよ』と言う子どもたちの話をよく聞く。本当は思っていないけれども、決まり文句のように言っている場面かもしれない。」

「いいよ」と言うとほめてもらえると感じているのかもしれない

「自分の子も、他の子と遊ぶ時は『いいよ』とよく言っている。そう言うとほめてもらえるってわかって、がまんして言っているのかもしれない。子どもが『いいよ』と言った時には、後で落ち着いた時に本当の気持ちを聞いてみようかな。」

「『かして』と言われても、かしたくない時は、『あとでね』と言って、少し遊んでから交代する方法を教えたことがある。子どもは『あとでね』と言うようになった。」



【すぐるくんについて】



すぐるくんは、ブロックで遊びたかったけれど、言い出せなかったのかな

「電車で遊んでいたけれど、ブロックが楽しそうに遊びたくなっただろうね。でも、近づいてきたのに、遊びたいと言いつけなかったのかな。」

自分の子どもも、すぐるくんと同じような様子

「うちの子も、すぐるくんみたいに、遊びたくてもなかなか言い出せない。じっと見ているだけの子ども様子を見ると、もどかしくなるけれども、親として見守ったほうがいいのか、何か言った方がいいのか迷ってしまう。」



話しあいのポイント

1. さやかちゃんは、「いいよ」のセリフが何度か出てくるところ、すぐるくんは、ブロックに近づいてきたのにしばらく見たままで、突然ブロックをつかんだことでさやかちゃんとけんかになったところなどが、話しあう場面となるでしょう。
2. さやかちゃんやすぐるくんの気持ちを考える中で、「みなさんのお子さんはどうですか？」というように、参加者のお子さんの様子についても聞くと話の内容が深まります。

3

ちずるさんやスタッフの声かけについて、
どう思いますか？

45



リーダー

ちずるさんやスタッフの声かけについて、どう思いますか？

- ・まずは、ちずるさんの声かけについて、お話しください。
- ・次に、スタッフについて、お話しください。

予想される意見

【ちずるさんについて】



ちずるさんは、トラブルを起こさぬようになっていると思う

「おもちゃの取り合いなど、けんかやトラブルが起きないように、親が間に入っているんだと思うけれど、大人が言いすぎだと思う。」

子どものしたいように遊べるよう、見守りたい

「できれば、子どものしたいように遊ばせたい。お互いに良く知っている親同士がいる場ではそれができるので、できるだけ子どもの様子を見守ったり、子ども同士のやりとりを大事にしたい。」

私も、ちずるさんのようにしてしまおう

「おもちゃの取り合いとかで、他の人とトラブルになるのがイヤだから、私も、ちずるさんのように先に謝ったり、間に入ったりと、子どもの先回りをしてしまおう。」

トラブルは避けたいと思う

「前に、知らない親にすごく怒られたことがあった。本当は自由に遊ばせてあげたいけれど、知らない親がいたら、違う場所で遊ばせるようにして、避けてしまおう。」



【スタッフについて】



子どもがうまく言えない時に、手伝っているのかな

「すぐるくんの気持ちを代弁していただけれど、そんな関わりが必要なのかな。」

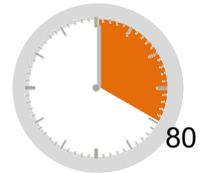
スタッフは、よくほめている

「スタッフの方は、子どもと関わるのがうまいなあ。自分は、このスタッフみたいに何度もほめていないな。しかるのはしているけれど、ほめるのは難しいなあ。」



話しあいのポイント

1. ちずるさんが話すタイミングや、スタッフが子どもの意見を代弁したりほめたりすることについて、話しあわれることが想定されます。
2. ちずるさんやスタッフが子どもと関わる様子を考える中で、「みなさんだったら、どのようにしますか？」というように、参加者自身の子どもとの関わりについても聞くと話の内容が深まります。



4

子どもの「かかわる力」を育てるには、何が大切でしょう？



リーダー

子どもの「かかわる力」を育てるには、何が大切でしょう？
アイデアや工夫などを、話しあってみましょう。こんなことしているとか、していなくても、こんなふうにした方がいいと思っていることなど、お話しください。

予想される意見

コミュニケーションが大事

「忙しくて、なかなかゆっくり話せないけれど、やっぱり親子のコミュニケーションが大事なんだと思う。時々、時間を取って、ゆっくり話してみようかな。」



気持ちを聞くことが必要

「子どもの気持ちを聞くことが大事だと思う。特に、小さいうちは、うまく言えないこともあるから、『〇〇かな？』と、代弁することも必要だと思う。ちょっと大きくなったら、他の人の気持ちも考えさせたいな。」

絵本がいいと思う

「読み聞かせをしたり、一緒に絵本を読んだりするといいのだと思う。言葉や、関わり方を知れると思う。忙しくてなかなかできていないけれど……。」

いろいろな体験をするといい

「近所を散歩したり、地域のイベントに参加したり、いろいろな体験をするといいんじゃないのかな。」

いろいろな人との関わりが大事

「近所の人とか、友だちの親とか、園の先生とか、よく行くお店の人とか、いろいろな人とあいさつしたり、関わったりしてほしい。」

大人が人と関わっている姿を、子どもに見せることが必要 でも、たいへん

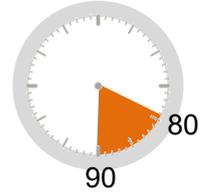
「子どもだけじゃなくて、大人も、いろいろな人と関わっている方がいいと思う。子どもは、大人がしていることを見ている。でも、他人との関わりは気を使うことがあるし、仕事で忙しいと時間が無くて、たいへんだとも思う。」



話しあいのポイント

1. 参加者それぞれから意見を出し合えるようにするため、少し時間（2～3分程）をとって、参加者それぞれが、付箋に意見を書き、それを大きな紙などに貼りながら話しあいを進める方法（付箋を使ったワーク）があります。
2. 意見を出し合うことで、その全てを「しなければならぬ」と思うと、参加者の負担感が高まってしまいます。「大事だけれども、実行するのは難しい」というような思いを受け止めながら、話を聞くことが大切です。

ふりかえり



今日の話しあいをふりかえりましょう。



リーダー

ありがとうございました。
最後にみなさんの思いを共有しましょう。
一人ずつ順番に、今日の感想をお願いします。

予想される意見

「今まで考えたことが無かったような気づきがたくさんできた。」

「子どもと関わることについて、話をしたり聞いたりして共感できることがたくさんあった。」

「自分自身、コミュニケーションが苦手で、思っていることをうまく話せなかったけれど、グループワークではみんなに話を聞いてもらえてうれしかった。」

「自分の子どもより少し大きい子の保護者の話を聞くことができたので、遊び方や友だちとの関わり方など、これからの子どもの成長の様子をイメージすることができた。」

「子どもは、自分より少し大きい子の様子を見て、あこがれ、まねをする。いろいろな子と関わる場を増やしたい。」

「家での子どもの関わり方と、子どもの友達との関わり方を見直そうと思った。」

「コミュニケーションを取るために、まずは、あいさつが大事だと思った。」



ふりかえりのポイント

1. ふりかえりでは、ここまでの話しあいをふまえ、エピソードからはなれ自分の身近な事象として捉えて考えていきます。自分ならどう考え、何をするか、多様な考えがあることに気付いたり、自分の子育てをふりかえったりすることになります。
2. テーマが「かかわる」であると確認することで、テーマに沿ったふりかえりをしやすくなります。
3. 多くの参加者とは異なる少数意見があっても、それを否定せず、全ての意見を尊重します。特定の感想に集約させるなど、無理にまとめる必要はありません。
4. 参加者が日頃の想いや考えを話すことができたか、また、気持ちがリフレッシュでき、子育てに前向きに取り組む気持ちになれたかを問いかけ、確認しましょう。

ふりかえりの言葉の例



たくさん意見が出てきましたね。子どもが他の子と関わったり、その中でけんかになったりすることはありますね。皆さん悩みながら、毎日を過ごしていますね。共感される場面がたくさんありましたね。その中で出てきた、ほかの人がしていることがヒントになるかもしれませんね。

乳幼児期に育みたい 未来に向かう力

「かかわる」がテーマの本教材では、「人と関わる力」について考えます。これは、子どもたちの「未来に向かう力」のひとつです。

「未来に向かう力」とは、自分やまわりの人たちと、折り合いをつける力のことです。例えば、目標に向かってがんばる力（忍耐力、自制心、意欲など）、気持ちをコントロールする力（自尊心、自信、ルールを守るなど）、他の人と関わる力（人の気持ちを感じる力、共感、思いやりなど）などがあげられます。「非認知能力（ひにんちのうりょく）」や「社会情動的（しゃかいじょうどうてき）スキル」とも呼ばれます。

最近の研究で、記憶力や推論する力などのIQで測れる「認知能力」だけでなく、この「未来に向かう力」が、子どもの将来にとって大事であることが明らかになっています。

未来に向かう力は、どうして必要なのか

乳幼児期に「未来に向かう力」が育まると、それを土台として、小学生のころにはさらに大きく育まれていきます。それによって、難しい問題に挑戦したり、友だちと協力したり、困った時に人を頼ったりする力につながります。また、学習などがわかる力・考える力を育むことにもつながります。

さらに、「未来に向かう力」は、大人になった時に社会を生き抜く力にもつながります。

安全基地（信頼・安心感など）が未来に向かう力の土台になります

安全基地とは、子どもの不安をいつでも受けとめる、安心できる大人の存在です。子どもの心のよりどころのことで、物理的な場所としての基地を作るのとは異なります。

子どもが不安な時などに、体や気持ちを受けとめてもらえることで、安心感や信頼感が生まれます。これを繰り返すことで安全基地ができます。特別難しいことをするのではなく、日常の関わりの中で、育まれます。

いざという時に頼れるところ（安全基地）があることで、子どもはいろいろなことにチャレンジしようという気持ちになれます。安全基地が、子どもの「未来に向かう力」の土台となります。

育むために大切なことは？

0～2歳ごろには、大人が子どもの思いをくみとろうとしながら関わることで、子どもの意欲や自信、気持ちを感じる力など、未来に向かう力の芽が育まれます。

3～5歳ごろには、子どもがいろいろなことにチャレンジしたり、認めてもらったり、失敗しても受け止めてもらえたりする経験を積み重ねることで、目標に向かってがんばる力（忍耐力、自制心、意欲など）や、気持ちをコントロールする力（自尊心、自信、ルールを守るなど）が育まれます。また、気持ちを聞いたり伝えたりする関わりを通じて、人の気持ちを感じる力が育まれます。様々な関わりが、他の人への共感や思いやりにつながります。

資料：大阪府教育委員会「乳幼児期に育みたい！ 未来に向かう力」（令和2年3月）

<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiiku/kateikyoiukusien/mirainimukautikara.html>

